今なぜSoTLなのか：
日本の大学における可能性と課題

飯 吉　透

京都大学 高等教育研究開発推進センター長・教授

帝京大学SoTLシンポジウム2020　2020年10月17日

アウトライン

- Scholarship of Teaching and Learningの源流
- アメリカにおけるカーネギー財団CASTLプログラム・知識メディア研究所の取組（1998～2008）
- MITにおけるSoTL的展開（2009～2011）
- 日本におけるSoTL的取組の事例（京都大学高等教育研究開発推進センターによる国内大学教員のためのMOSTフェローシッププログラム, 2012～現在）
- 今後の日本の大学におけるSoTLの可能性と課題

アメリカの高等教育におけるFDの歴史

- 元来は、研究者としての専門知識の育成に主眼
  - 「研究分野を熟知している＝よく教えられる」という前提に基づく
  - 研究休暇制度（Harvardで1810年に始まる）
- 社会や経済における変化の影響（例：1960-70年代の学生運動や石油ショックによる不況）
  - 既存の講義スタイル、研究・知識偏重主義への批判
  - 学生の多様化（年齢、人種、文化、社会経済的階層、社会人の就学など）
  - 大学教員の雇用形態の変化（「無制限」な雇い入れの終焉、終身雇用制度の導入）

アメリカの高等教育におけるFDの歴史（続）

- 1960代の終わりには、アメリカの高等教育におけるFDプログラムの数は、50未満。
- 専任のコーディネーター・ディレクターを置くFDプログラムが設置された大学（短大を除く）は、1970年半ばには40%+、1990年半ばには約70%に増加。
- 1990年代の主流は、FDプログラムの改善やTeachingの質的向上。
  - 教育奨励賞の改善や学部・学科長の積極的関与。
- 2000年代の主流は、Learningの質的向上。
  - 教授・学習ポートフォリオなどの導入。「学習の証拠」をどのように収集し、教育改善に役立てるか。

1990〜2000年代のFD改善・拡充の主眼

- 新任教員の育成と保持
- 多様な文化・人種への配慮
- 学部・学科長のリーダーシップとサポート
- ティーチング・アシスタントの養成
- 教育の質的評価
- 包括的なFD
- テクノロジー利用による遠隔教育
- 非常勤教員の養成
- カリキュラム開発（テクノロジー・インターネット活用も含む）

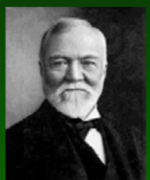
過去20年余りにおけるFDのもう一つの潮流：Scholarship of Teaching and Learning (SoTL)

- 教授実践を公開する (making teaching public)
- Peer Reviewを通した建設的意見交換を行う
- 互いの実践から学び合い、個人・コミュニティーとして教育実践の改善に関する知識構築を行う

(Lee S. Shulman)

カーネギー教育振興財団について

- 教育の進展に関する学術調査や政策研究を行う研究財団（独立法人シンクタンク）
- 1905年設立
- 初等・中等・高等教育、専門家教育の改善と進展に関する13のプログラム・プロジェクト
- プログラムを通じた助成活動



THE CARNEGIE FOUNDATION FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

Faculty Developmentとは、大学における「教授実践」の文化や価値観を変えること。

個々の教員の価値観・教授活動に対する意識と行動の変容

教授実践コミュニティーの形成

教育機関としての大学の意欲的な取り組み

THE CARNEGIE FOUNDATION FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

教育実践コミュニティーの特性と価値観

実践	Good	Better	Best
コミュニティーの特性	Communal 共有的	Collaborative 協調的	Competitive 競争的
価値	Product 現状	Process 改善の過程	Product 理想的モデル

THE CARNEGIE FOUNDATION FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

Carnegie Academy for the Scholarship of Teaching and Learning (CASTL)

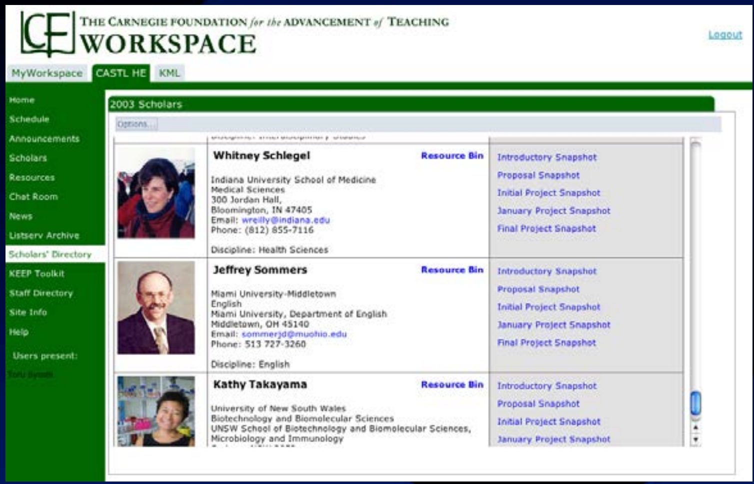
Scholarship of Teaching and Learningリーダー養成のための一年制のフェローシッププログラム (1998-2008)

THE CARNEGIE FOUNDATION FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

CASTL: 学際的コミュニティー

生化学	法学
ビジネス	数学
化学	芸術学
コミュニケーション	哲学
経済学	物理学
教育学	政治学
工学	心理学
文学	宗教学
語学	社会学
歴史学	神学
複合領域分野	公衆衛生学

THE CARNEGIE FOUNDATION FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING



知識メディア研究所
Knowledge Media Laboratory (KML)

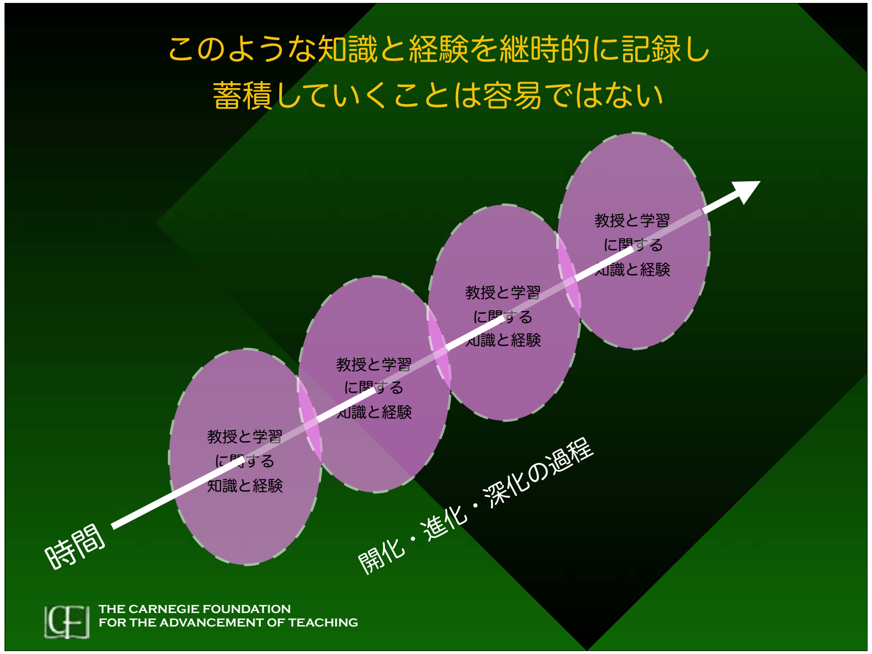
- マルチメディアやネットワークテクノロジーを利用した教育の質的改善に関する調査・研究・開発
- より多くの教員・学習者・教育機関が、「教授・学習に関する内在的経験や知識を外在化し、知の実践コミュニティーとして共有・蓄積可能にする」ための支援・提言
- 教育におけるこのようなテクノロジー利用を促進するための啓蒙・普及活動と将来ビジョンの探求

各CASTLフェローのプロジェクトとそこから得られた知見をマルチメディアとインターネットを利用して、どのように公開し共有できるか？

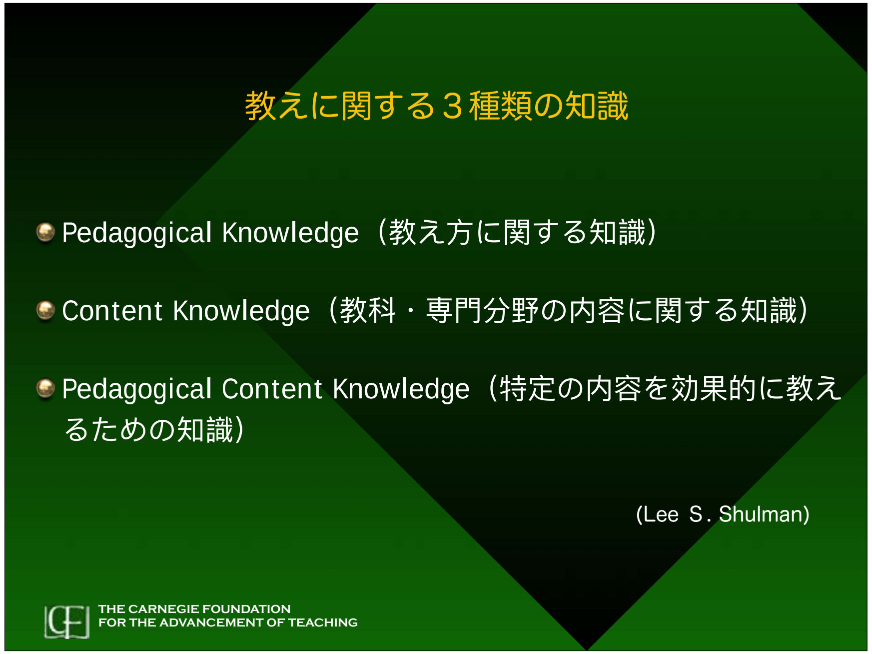
教育的知識や経験をどのように扱い、どのように表象すればいいのか？

ここでいう「知識(ナレッジ)」とは?

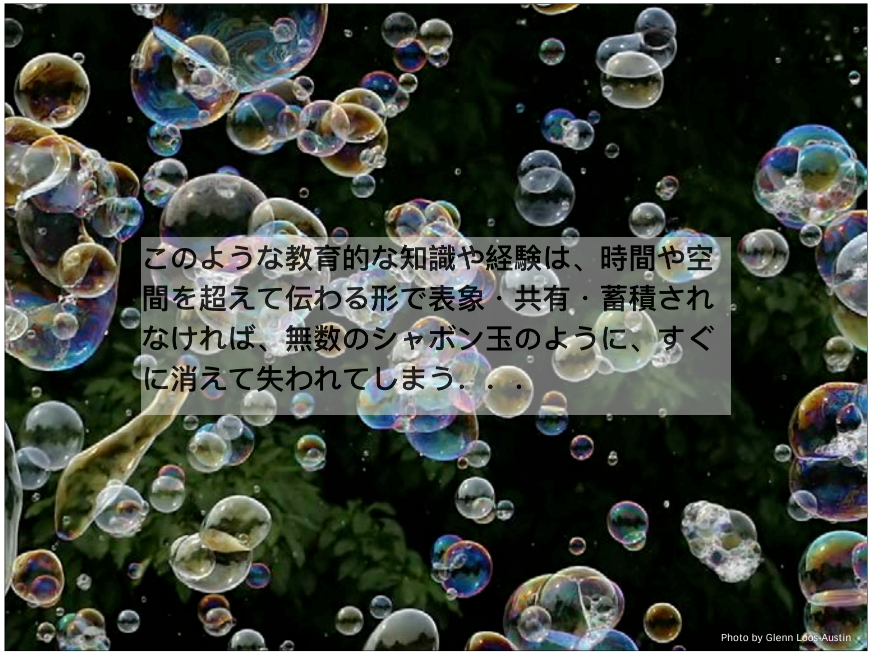
教授と学習に関する
経験的知識


このような知識と経験を継時的に記録し
蓄積していくことは容易ではない
教授と学習
に関する
知識と経験
教授と学習
に関する
知識と経験
教授と学習
に関する
知識と経験
教授と学習
に関する
知識と経験
時間
開化・進化・深化の過程
THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

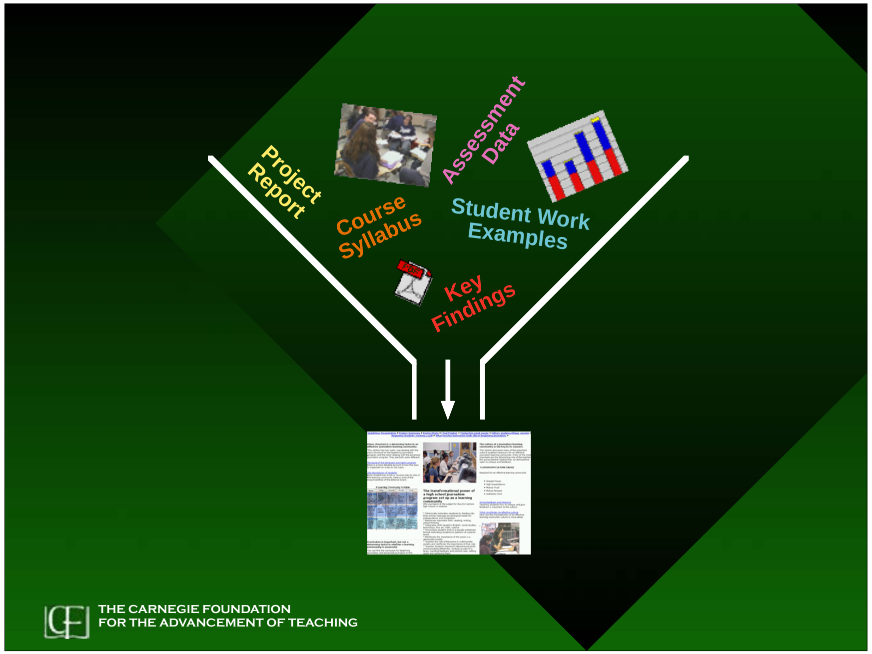
17


教えに関する３種類の知識
Pedagogical Knowledge（教え方に関する知識）
Content Knowledge（教科・専門分野の内容に関する知識）
Pedagogical Content Knowledge（特定の内容を効果的に教えるための知識）
(Lee S. Shulman)
THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

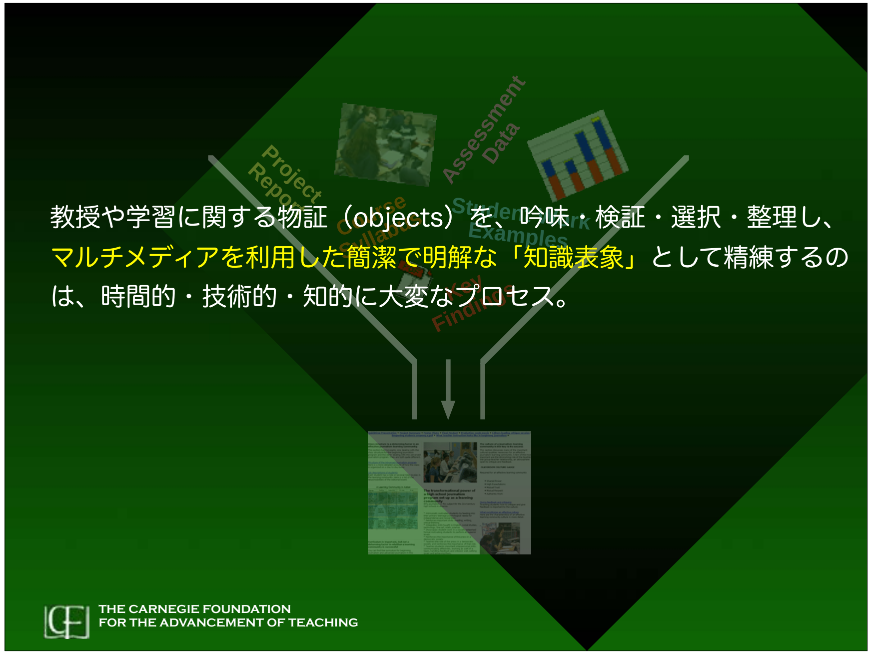
18


このような教育的な知識や経験は、時間や空間を超えて伝わる形で表象・共有・蓄積されなければ、無数のシャボン玉のように、すぐに消えて失われてしまう．．．
Photo by Glenn Loos-Austin

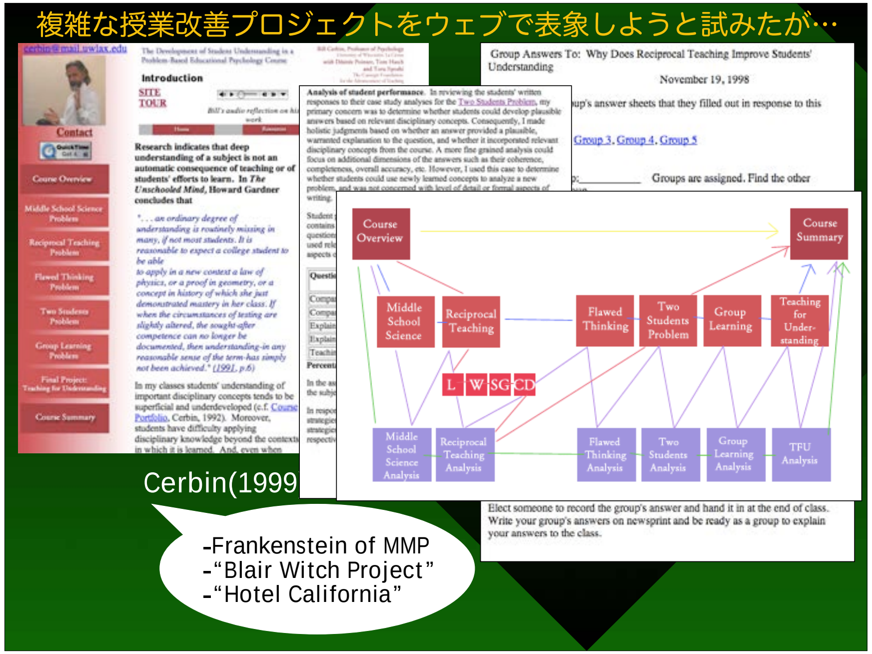
19


Project Report
Course Syllabus
Assessment Data
Student Work Examples
Key Findings
THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

20


Project Report
Assessment Data
Student Work Examples
教授や学習に関する物証（objects）を、吟味・検証・選択・整理し、
マルチメディアを利用した簡潔で明解な「知識表象」として精練するのは、時間的・技術的・知的に大変なプロセス。
THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

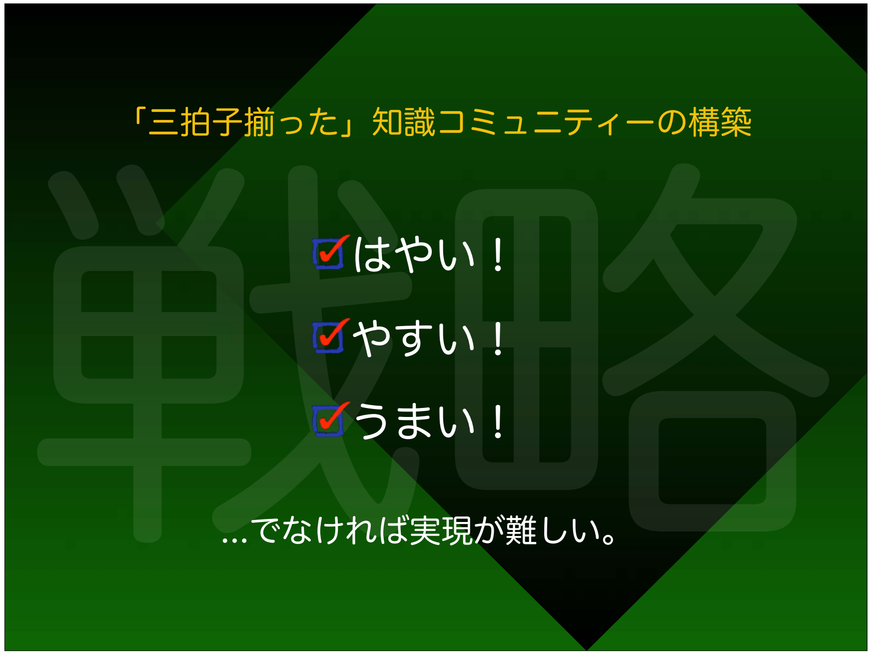
21


複雑な授業改善プロジェクトをウェブで表象しようと試みたが…
Course Overview
Course Summary
Middle School Science
Reciprocal Teaching
Flawed Thinking
Two Students Problem
Group Learning
Teaching for Under-standing
L W SG CD
Middle School Science Analysis
Reciprocal Teaching Analysis
Flawed Thinking Analysis
Two Students Analysis
Group Learning Analysis
TFU Analysis
Cerbin(1999)
-Frankenstein of MMP
-"Blair Witch Project"
-"Hotel California"

22


抜本的方向転換と躍進！
"Mini" Cerbin (2001)
Revealing Student Understanding in a Problem-Based Educational Psychology Course
Cerbin(1999)
そして進化は続く…

23


「三拍子揃った」知識コミュニティーの構築
戦略
はやい！
やすい！
うまい！
…でなければ実現が難しい。

24

KEEP Toolkit: 教育知識表象・共有テクノロジー

オープンソース
無料利用サービス

THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

2000年代当時のKEEP Toolkitネットワーク

- MIT
- University of Maryland
- University of British Columbia (Canada)
- University of New South Wales (Australia)
- Aquinas College
- University of Minnesota
- Gateway Community College
- Thomas Jefferson University
- North Carolina State University
- University of Wisconsin-Madison
- Kyoto University
- UCSF
- HHMI
- MERLOT
- University of Southern Maine
- Virtual Teacher Centre
- Queen's College
- Union Institute & University
- Mills College
- University of Waterloo, and more

教育改善に不可欠な教育的知識共有

「自らを絶え間なく進歩させる学術的実践コミュニティーの一員としての大学教員の『職業的な責務』は、単に教育・研究内容や専門分野の知識を伝播すること以上のものでなければない。これらを伝播するだけでは、教育の改善や改革を恒常的に促進させることは難しく、学術的実践コミュニティーにとって、教授行為や教材・教育課程・教育的ツールの開発と利用に関する暗黙的・明示的知識を共有することは不可欠である。」

（Iiyoshi, Richardson, & McGrath, 2006; Iiyoshi, 2006）

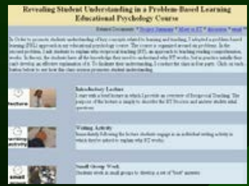
THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

オープンナレッジ支援ツール・環境の必要性

- 教授と学習の様々な側面を反映する物証（シラバス、教材、教授-学習過程における成果物など）の選定
- 分析と内省(reflection)を促進と支援
- 物証と内省を整理し、理解しやすい知識表象に精練
- 知識ベースを構築し、蓄積された知識を必要に応じて抽出し利用

THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

教育的知識表象のフレームワークを
テンプレートを通して提供



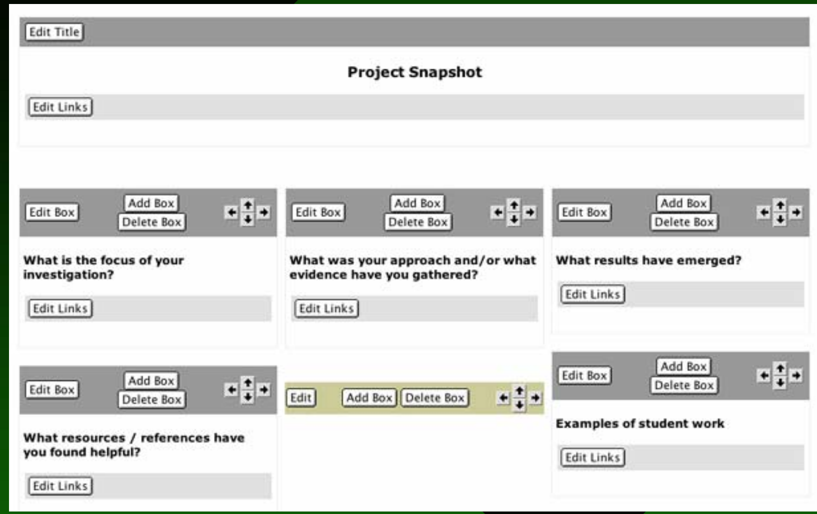
教授法改善プロジェクト用
テンプレート

コース改善プロジェクト用
テンプレート

ビデオを利用した授業分析用
テンプレート

THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

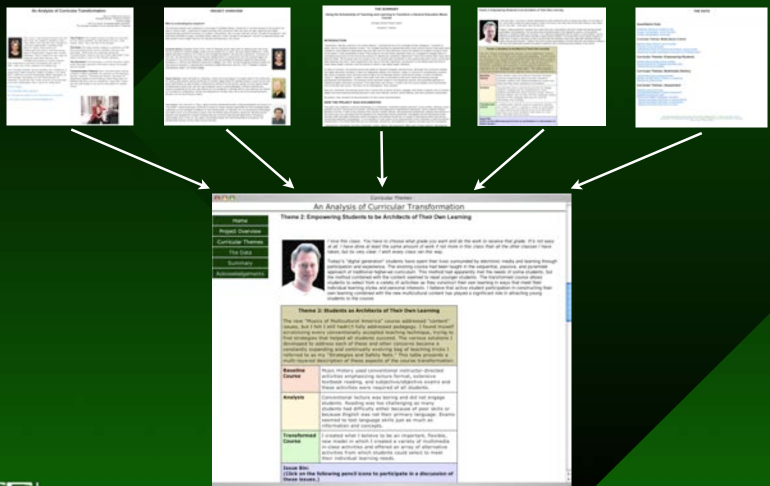
「元祖」SoTLプロジェクト・テンプレート



THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

「Snapshot」をグループ化し、目的に応じた
eポートフォーリオを組み立てる

SoTL Project Snapshot　Course Transformation Snapshot　Class Anatomy Snapshot



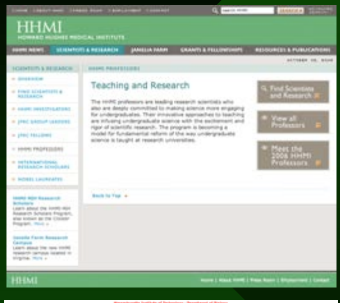
THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

Hewlett Foundation
Higher Education Projects

Howard Hughes Medical Institute
HHMI Professors Program

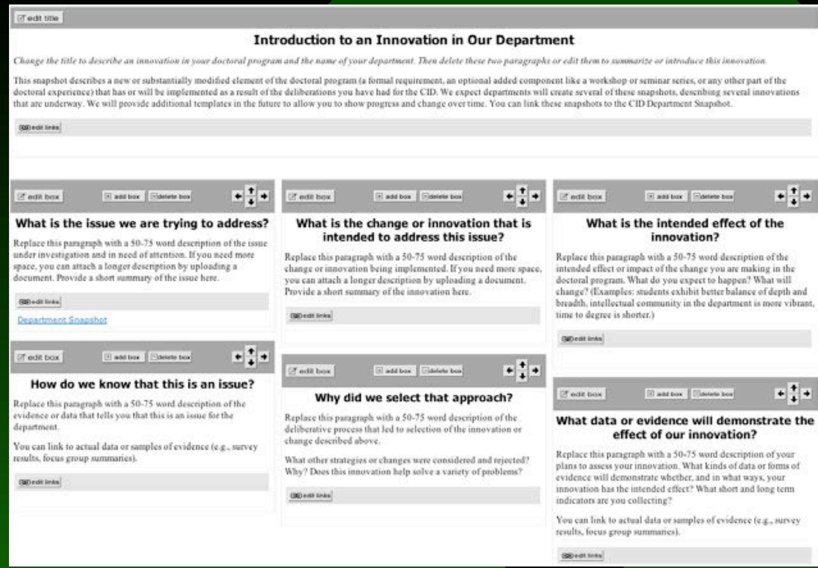
大規模で複雑な助成プロジェクトの過程と成果の記録と公開を支援

HHMI Professors Program (a.k.a. 1M$ Profs)



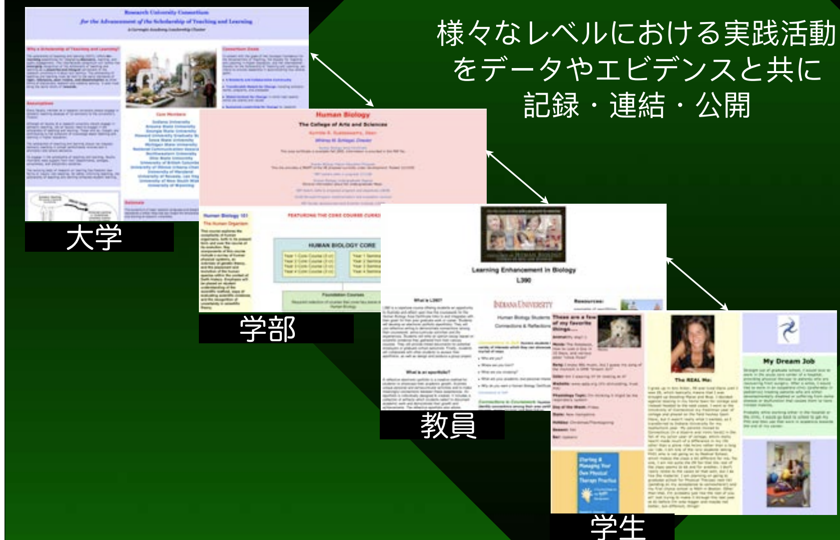
★ 生物学教育における複数年にわたるカリキュラム開発・改善プロジェクトを記録・公開

★ 助成されたプロジェクトの過程や成果の評価の一環として、HHMIの理事会がこれらの「SNAPSHOTS」を査読

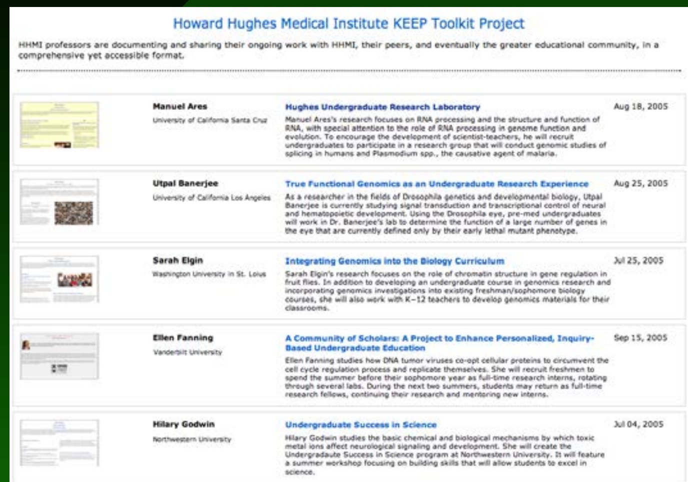


THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

様々なレベルにおける実践活動をデータやエビデンスと共に記録・連結・公開



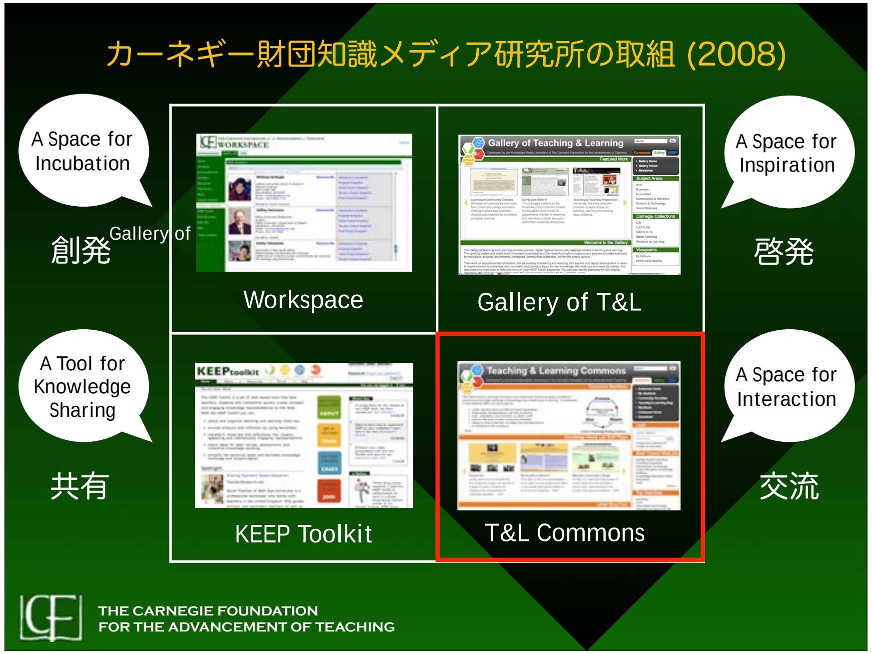
プロジェクトやテーマ毎にeポートフォーリオのオンライン・ギャラリーを作成し公開する



THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING


Gallery of Teaching & Learning
Developed by the Knowledge Media Laboratory of The Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching
Featured Work
Subject Areas
Carnegie Collections
Welcome to the Gallery
Viewpoints
Gallery Spotlight
Linking Teaching and Learning by Linking Community Members
カーネギー財団の教育改善・改革プロジェクトを通して作られたマルチメディアによる知識・経験表象（eポートフォリオ）を、３００以上所蔵。
(http://gallery.carnegiefoundation.org)
THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

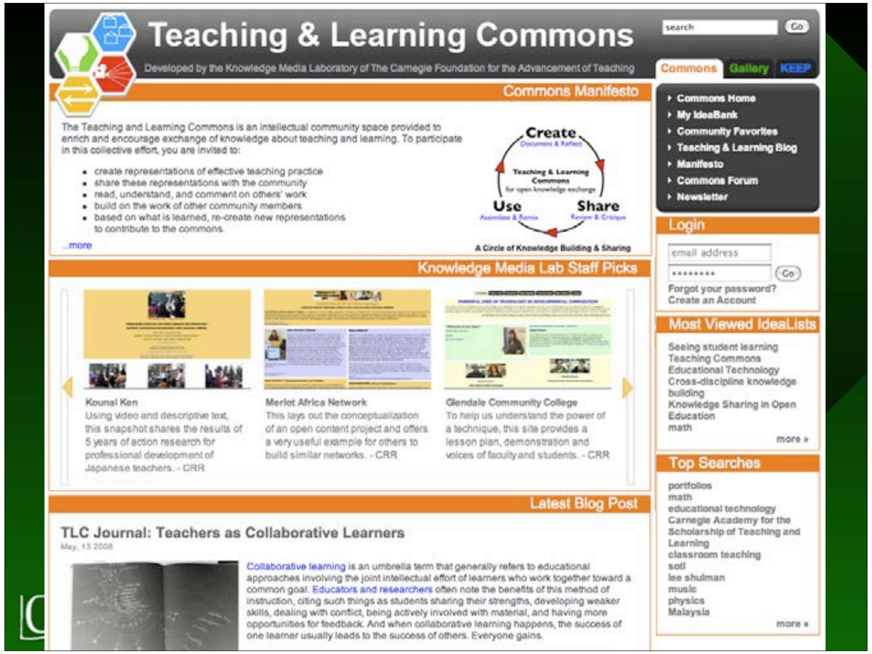
37


カーネギー財団知識メディア研究所の取組 (2008)
A Space for Incubation
創発
Gallery of
Workspace
Gallery of T&L
A Space for Inspiration
啓発
A Tool for Knowledge Sharing
共有
KEEP Toolkit
T&L Commons
A Space for Interaction
交流
THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

38


KEEP Toolkitを使って、世界中の38,000人以上の教育者や学生が、既に140,000以上もの教育的知識の表象(ナレッジ・オブジェクト)を生み出した。
THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

39

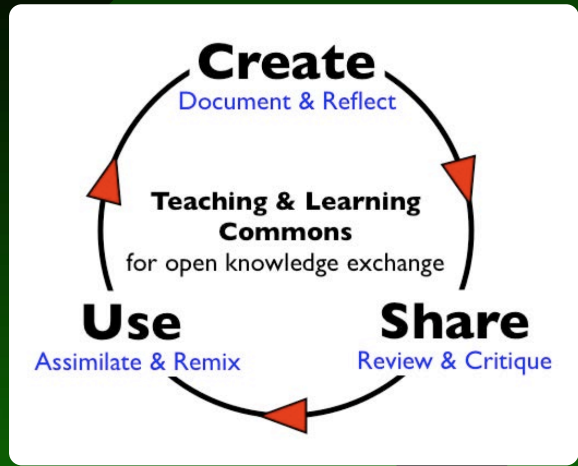

Teaching & Learning Commons
Developed by the Knowledge Media Laboratory of The Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching
Commons Manifesto
The Teaching and Learning Commons is an intellectual community space provided to enrich and encourage exchange of knowledge about teaching and learning. To participate in this collective effort, you are invited to:
create representations of effective teaching practice
share these representations with the community
read, understand, and comment on others' work
build on the work of other community members
based on what is learned, re-create new representations to contribute to the commons.
Create
Use
Share
A Circle of Knowledge Building & Sharing
Knowledge Media Lab Staff Picks
Latest Blog Post
TLC Journal: Teachers as Collaborative Learners
Commons Home
My IdeaBank
Community Favorites
Teaching & Learning Blog
Manifesto
Commons Forum
Newsletter
Login
Most Viewed IdeaLists
Top Searches

40

IdeaBank (自分の改善改善の役に立つSnapshotリスト)

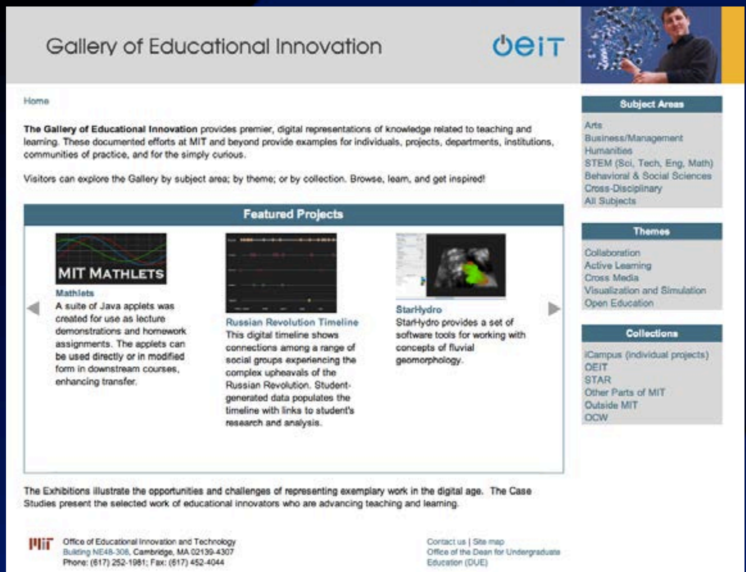
THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

A Circle of Knowledge Building and Sharing
教育的知識の構築と共有の(生成ー共有ー利用)循環

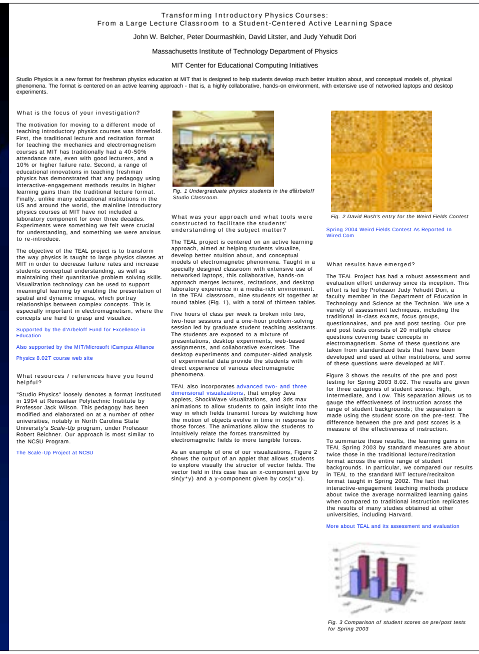


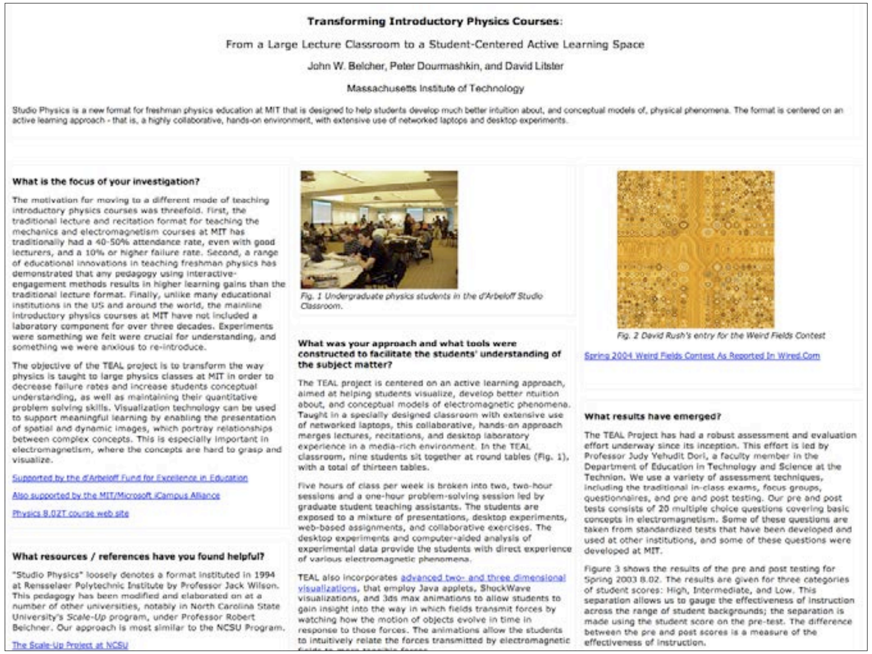
THE CARNEGIE FOUNDATION
FOR THE ADVANCEMENT OF TEACHING

(Iiyoshi & Richardson, 2008)



by MIT's Office of Educational Innovation and Technology (2008)





Scholarship of Teaching and Learning
(カーネギー財団発祥)

- 教授実践を公開する。
- Peer Reviewを通した建設的意見交換を行う。
- 互いの実践から学び合い、個人・コミュニティーとして教育実践の改善に関する知識共有・構築を行う。

概念的類似性が高い!

相互研修型FD
(京都大学高等教育研究開発推進センター発祥)

MOST: Mutual Online System for Teaching & Learning

https://most-keep.jp
全ての大学・大学教員が利用可能（京都大学高等教育研究開発推進センターが運営）

日本版CASTL：MOSTフェロープログラム@京大

京都大学 高等教育研究開発推進センター

MOSTフェロープログラム

第9期MOSTフェロー	第8期MOSTフェロー	第7期MOSTフェロー
第6期MOSTフェロー	第5期MOSTフェロー	第4期MOSTフェロー
第3期MOSTフェロー	第2期MOSTフェロー	第1期MOSTフェロー

本センターでは、大学教育改善を全国レベルで推進する「MOSTフェローシッププログラム」を2012年度より提供しています。毎年、全国から選ばれた10名の大学教員が、1年間かけて、対面とオンラインで交流しながら個々の教育改善に取り組むとともに、教員コミュニティの成長も目指しています。その成果はMOST上で公開するとともに、大学教育研究フォーラムで発表しています。

http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/most-fellow/

第9期MOSTフェロー 募集!!

京都大学高等教育研究開発推進センターでは、全国の大学教員を対象とした教育改善のための「**MOSTフェローシッププログラム**」を提供しています。現在、第8期の10名の大学教員が、対面やオンラインでのコミュニティ活動を通じ、仲間から刺激・アイデア・フィードバックを得ながら個々の教育改善に取り組んでいます。この活動をさらに推進・活性化させるため、引き続き「**第9期MOSTフェロー**」を募集することになりました。第1期から第8期の先輩フェローたち（77名）との交流があることも本プログラムの魅力の一つとなっています。大学や専門分野を超えて、教育というキーワードで集うフェローの仲間になってみませんか。

MOSTフェローになると･･･

- 教育活動に情熱を注ぐ先生方と仲間になれる！
- 仲間と取り組むことで教育改善に対する刺激やアイデアを得られる！
- 活動の成果を大学教育研究フォーラムやMOSTを通じてアピールできる！
- 先輩フェローたちとの交流が持てる！

第9期では、これまでに引き続き、アクティブラーニング、 ピア・インストラクション、PBL（プロジェクト型学習・プロブレムベース学習）、オンライン学習・ブレンディッド学習・反転授業、オープンエデュケーションの教育利用などの授業を推進している先生方を募集します。また、本センターでは優れた教育実践の蓄積・共有促進を実現する大学教育コモンズを運用しています。現時点で実際におこなっている実践でなく、過去に作成されたスナップショットの事例を元にした新たな取り組みも大歓迎です。上記に挙げたテーマに限らず、ユニークな授業実践をさらに追求したい方、これを機に新たな授業改善に挑戦したい方のご応募もお待ちしています!!

詳しくは裏面で

募集内容

本取組への参加を希望される方は下記の募集要領に従ってお申込みください。

- ○**対 象 者**：全国の大学教員
- ○**募集人数**：10名程度
- ○**活動期間**：2019年3月～2020年3月
  （*右のすべての活動への参加が必須です）
- ○**活 動 費**：各自でご負担頂きます
- ○**応募締切**：2019年1月21日（月）

2019年
- 3月25日（月） 10:30～13:00
  第1回会合（於：京都大学）
- 4月～9月：テーマに沿ったスナップショットの作成とピアレビュー
- 8月24日（土）～25日（日）：
  合宿（1泊2日）（於：北海道大学（予定））

2020年
- 3月：スナップショット公開
- 3月：第26回大学教育研究フォーラム
  （於：京都大学）で成果発表

募集要領

MOSTフェローへの参加を希望する方は、以下の項目(1)~(8)をメールにて most-f@highedu.kyoto-u.ac.jp 宛にお送りください。なお、採用の可否については、締切日から1週間後を目処に、個別にメールにてお知らせします。

(1) 氏名　(2) 所属（大学名・部局名）　(3) 職名　(4) メールアドレス
(5) 取組のテーマ（下記の「取り組みの例」参照）
(6) 取組の範囲*
　(a) 個人の取組　(b) 学内の教員グループでの取組　(c) 学科・学部等、組織的な取組
　(d) 大学を越えた教員グループの取組　(e) (a)~(d) 以外（具体的に：　）
　注：この項目は取組の規模をお尋ねしており、グループや組織での応募は行っていません。応募は教員単位となります。
(7) 応募の動機、取組の背景、授業の概要、改善の内容・方法など（A4サイズ1枚程度）
　注：過去に作成されたスナップショット（参考：MOSTギャラクシー）の事例を元にした新たな授業実践の場合は、どのスナップショットをどのように発展させるのかについての具体的な計画も含めて下さい。
(8) その他、取り組みに関して選考の参考となる資料（任意）

MOSTフェローシッププログラム (2012~)

教育に熱い大学教員による授業改善のための実践コミュニティー

MOSTフェロー（第1～6期）

MOSTコミュニティーの活動：表彰

MOSTフェロー（第7期）修了式 3.24.2019

MOSTフェローシッププログラム (2012~)

教育に熱い大学教員による授業改善のための実践コミュニティー

MOSTフェロー（第8期）夏合宿@北海道大学 (2019)

MOSTコミュニティーの活動：フェロー同士の研鑽

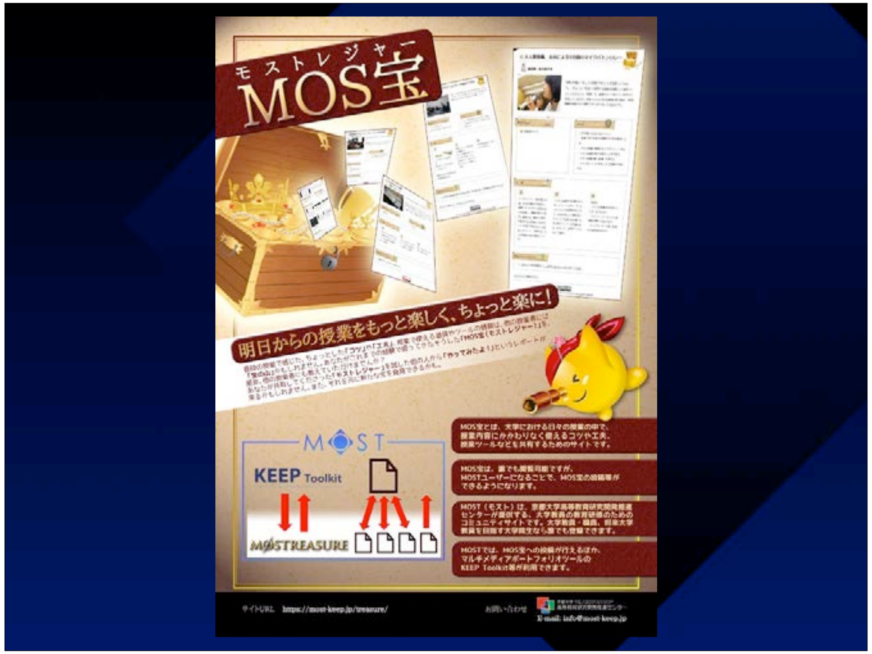
MOSTコミュニティーの活動：フェロー同士の研鑽

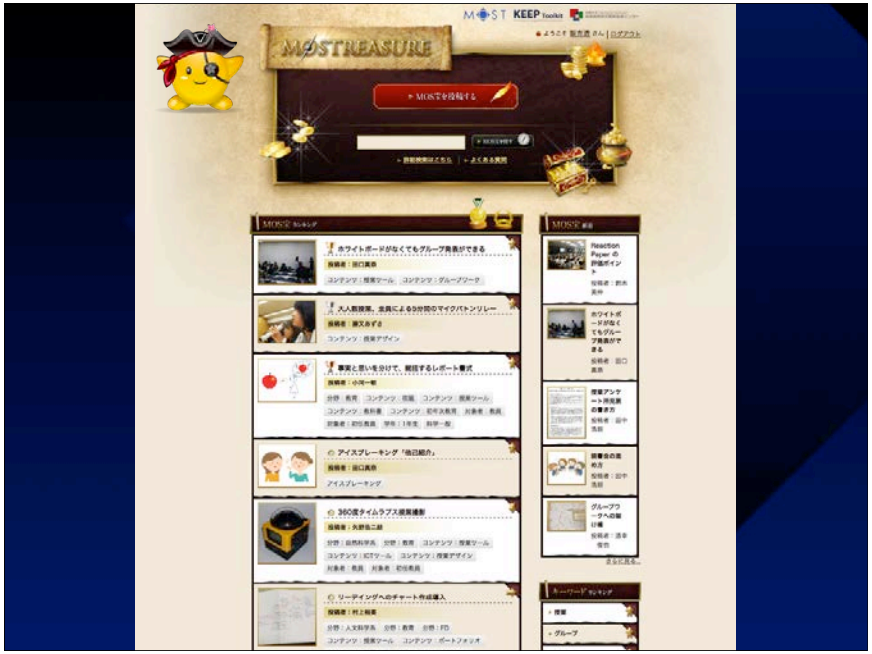

HOME
MOSTについて
MOST TOUR
MOST GALAXY
COSMOST
ユーザー掲示板
MOSTは、大学教員の相互研修の場をコンセプトとする招待制のコミュニティサイトです。
Mutual Online System for Teaching & Learning
https://most-keep.jp/most/


HOME
MOSTについて
MOST TOUR
MOST GALAXY
COSMOST
ユーザー掲示板
MOST GALAXY -スナップショットギャラリー-


医療専門職の解剖学教育と支援
コースの基本情報
実際の授業
グループワーク 初回
グループワーク 2回目
学習目標
学生の学び
第8期(2019年度)MOSTフェローのスナップ

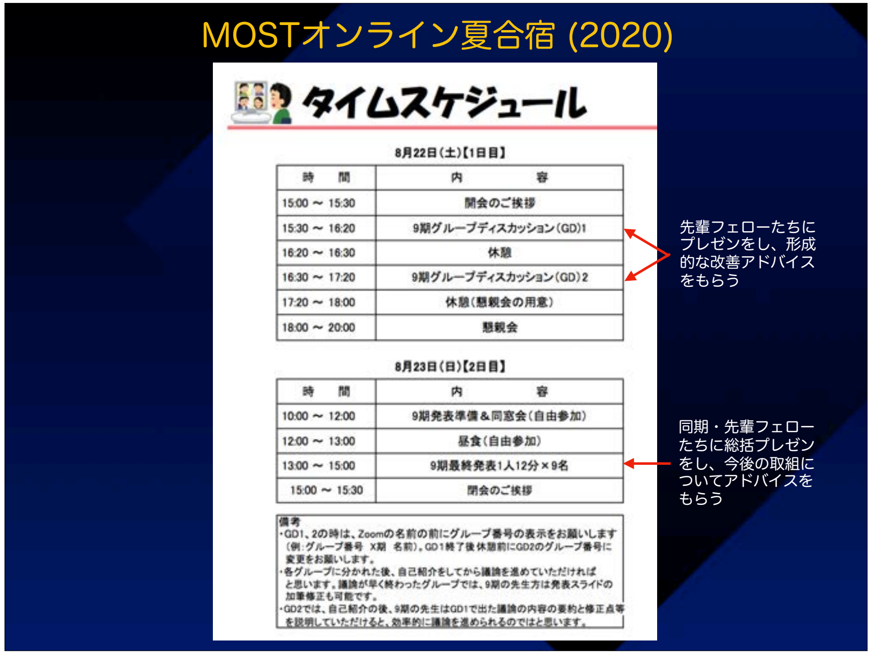

環境工学分野における複合的なICT活用タスクを組み込んだ「情報処理入門」の授業モデルの提案
対象となる実践について
方法
協力者・ピアレビュー
プロジェクトの目標
プロジェクトの背景
資料・文献
MOSTフェローのスナップショット





オンラインMOSTコミュニティーの進化

Mutual Online System for Teaching & Learning



8月22日(土)【1日目】

時　間	内　容
15:00 ～ 15:30	開会のご挨拶
15:30 ～ 16:20	9期グループディスカッション(GD)1
16:20 ～ 16:30	休憩
16:30 ～ 17:20	9期グループディスカッション(GD)2
17:20 ～ 18:00	休憩(懇親会の用意)
18:00 ～ 20:00	懇親会

8月23日(日)【2日目】

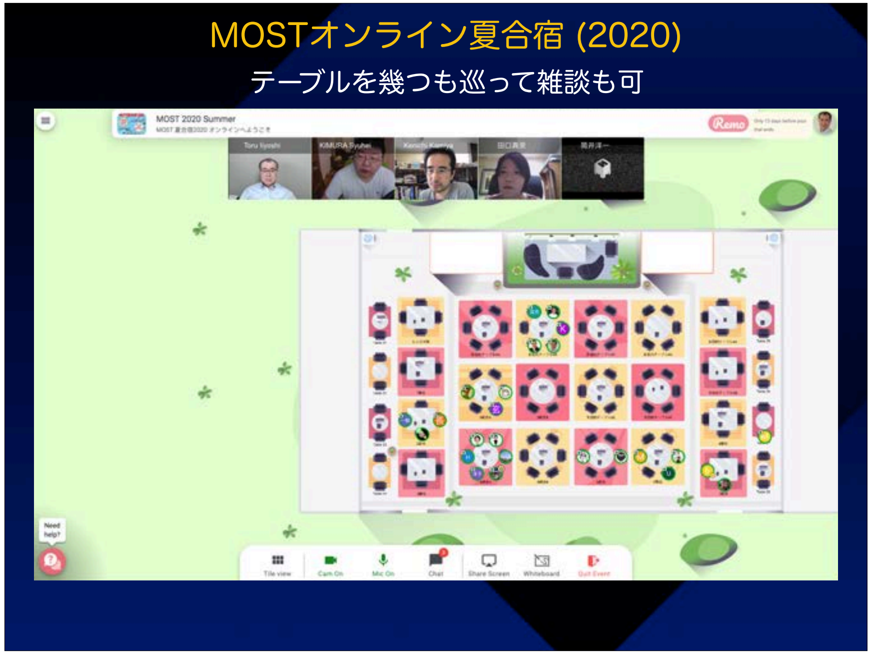
時　間	内　容
10:00 ～ 12:00	9期発表準備＆同窓会(自由参加)
12:00 ～ 13:00	昼食(自由参加)
13:00 ～ 15:00	9期最終発表1人12分×9名
15:00 ～ 15:30	閉会のご挨拶

備考
・GD1、2の時は、Zoomの名前の前にグループ番号の表示をお願いします(例:グループ番号 X期 名前)。GD1終了後休憩前にGD2のグループ番号に変更をお願いします。
・各グループに分かれた後、自己紹介をしてから議論を進めていただければと思います。議論が早く終わったグループでは、9期の先生方は発表スライドの加筆修正も可能です。
・GD2では、自己紹介の後、9期の先生はGD1で出た議論の内容の要約と修正点等を説明していただけると、効率的に議論を進められるのではと思います。

65

66

67



68

MOSTフェロー発表会(祭典?)

FD笑百科（2015）

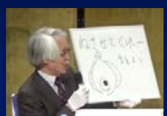
FD 笑 百科
Ask Faculty Development Gurus

第21回大学教育研究フォーラム
@京都大学吉田キャンパス
2015年3月13日（金）

FD笑百科とは？

大学教員の教育能力向上（Faculty Development）に関するさまざまなお困りごと、お悩み、ご相談をMOSTフェローやゲストの方々、そして会場の皆さんと一緒に考えるコーナーです

MOSTお宝鑑定団（2016）



MOSTフェロー発表会
「モストDE デートー異分野コラボレーションによる共同的授業実践の創発ー」
13：30～14：30　　百周年時計台記念館1F 百周年記念ホール

趣旨　京都大学高等教育研究開発推進センターでは、特徴ある授業実践をおこなっている全国の大学教員が参加するMOSTフェローシッププログラムを、2012年より実施してきました。MOSTフェローは、対面やオンラインで交流しながら、1年間かけてそれぞれの授業改善に取り組み、授業実践の中で直面する様々な教育的課題を相互の実践知から解決する大学教員の情報共有コミュニティを目指して活動しています。

現在、第5期9名が活動中ですが、近年、すでに修了証を得た第1期から第4期までを含めたMOSTフェローの相互交流が活発になりつつあります。その活動の一つとして、MOST フェローの専門分野が多様であることを活かした、異分野コラボレーションによる共同的授業実践が挙げられます。

米国の教育学研究者であるLee S. Shulmanは、SoTL (Scholarship of Teaching and Learning) を推進するためには、分野横断的に良き教育実践から学びあい、実践を積み重ねていくことが重要であることを強調しています。「教育実践コミュニティ」「実践と振り返りのコミュニティ (Community of Practice and Reflection)」として相互・創発的に授業改善をおこなうことは、多様化する大学教育実践の課題に対処するための有力な方策であるといえます。

本発表では、異分野コラボレーションによる共同的授業を実践された先生方の事例を楽しく紹介することで、このような「新しいFDモデル」の可能性をみなさんと考えてみたいと思います。

モスト DE デート（2017）

MOSTフェロー発表会
「MEGA CRISIS 巨大危機 IN CLASSROOM～脅威と闘う教員たち～」
13：30～14：30　　百周年時計台記念館1F 百周年記念ホール

趣　旨

京都大学高等教育研究開発推進センターでは、特徴ある授業実践をおこなっている全国の大学教員が参加するMOSTフェローシッププログラムを、2012年より実施してきました。

現在、第6期10名が活動中です。MOSTフェローは、対面やオンラインで交流しながら、1年間かけてそれぞれの授業改善に取り組み、授業実践の中で直面する様々な教育的課題を相互共有し解決する、多様な大学教員の実践コミュニティとして活動しています。第1期から第5期までを含めたMOSTフェローの相互交流の中から、新しい授業実践や研究活動が生まれています。

MOSTフェローコミュニティでは、グッドプラクティスだけではなく、失敗事例や未解決の難題も共有されます。本コミュニティは、教育経験や所属する大学、専門分野が異なれど教育に情熱を傾けるというマインドセットや価値観を共有するコミュニティであるからこそ、多様なアイデアを交換し合いながら、よりよい実践知を産みだします。

本発表では、授業や教育実践の中で実際に起こった「クライシス」を題材に、様々な困難をどうやって乗り越えていけばよいのかを考えます。

MEGA CRISIS 巨大危機 IN CLASSROOM（2018）

この9年間のMOST等の取組を通じた日本におけるSoTL的活動を振り返って

- 日本でもSoTL的取組を成功させることが可能！(しかも楽しく)
- 人・仕組み・仕掛けが大事（お金はそれほど要らない！）
- SoTLを持続・発展させていくためには、「参加教員のより良い教育への情熱と関心、互いの実践に対する興味と互いに学ぼうとする姿勢」が肝要
- オープンで求心力を持った緩く温かいコミュニティーの醸成とその中における分散的リーダーシップの涵養
- 「縦・横・斜め」の関係づくりの推進
- プロセスと成果の見える化 × 相互的Peer Review・研鑽・奨励
- LMS・オンライン会議ツール等のICT活用と授業ビデオ・教材・提出課題・成果物・ディスカッション等の電子化が進んだことはエビデンスベースの教育改善にとって追い風

今後の日本の大学におけるSoTLの可能性と課題

- トップダウン（制度・体制重視）とボトムアップ（文化・コミュニティー重視）なFD・教育改善の相乗効果
- 同一大学・学部・学科別 vs. 分野・組織を越えた越境的（Cross-Disciplinary）・個人的同胞性
- 個人（もしくはグループ）の教員による自発的な教育改善の取組と成果の見える化、教育的知見・価値の創造と共有
- 既存のフレームワークや基準を越えたカリキュラム/授業改善の（取組への意欲、弾力、やり抜く力を含めた）評価・報賞
- （ポストコロナ時代を見据え）激動のコロナ期を通じた新たな教育改善・FDの形・方法の模索